



第24回

# 俳句甲子園

(全国高等学校俳句選手権大会)

## 実施報告書

主催:NPO法人俳句甲子園実行委員会 共催:松山市、愛媛県

後援:文部科学省、(公社)全国高等学校文化連盟 ほか

【大会最優秀句・文部科学大臣賞】

### ウミユリの化石洗ひぬ山清水





## 高校生にしか語れない俳句がある

### <俳句甲子園の目的>

全国各地から俳句という文学を介して高校生たちが松山に集い、日本語を操る能力の向上、将来的な日本俳句文学の興隆のみならず、高校生相互の文化的交流、更には大会に関わる異世代との社会的交流を深め、豊かな人間性を育むことを目的としています。

### <開催趣旨>

誰でもふと口ずさむことができ、フランス人に「生きる芸術」と呼ばれた俳句。P. ピカソが「広々とした自由」と呼んだ俳句。現在全国の俳句愛好者は500万人を超え、いまや「俳句の時代」といわれるほど、この小さな詩形は、日本人の日々の暮らしに溶け込んでいます。とりわけ愛媛県では、近世から階層を問わずあらゆる分野の人々が俳諧に親しんできました。中世には神仏に捧げる法楽連歌が多く残されており、明治以降には俳句を近代の詩として再生させた正岡子規をはじめとして、高浜虚子、河東碧梧桐、中村草田男、石田波郷、芝不器男、富沢赤黄男など、さまざまな個性に彩られ

た俳人を輩出した伝統的風土があります。

俳句は、現代を生きる人々の心をく五・七・五という十七音に凝縮されたわずかな言葉の空間に解き放ち、またひとつの作品が読者との間にさまざまな読み方の回路を開き、いろいろに読むことができるという自在な活力にも満ちています。各地から俳句に親しむ高校生が一堂に参集し、俳句を楽しみ、交流することは、本来「座」に集う人々の共同の文芸であった俳句に相応しく、そこから生まれる人間的な交流は、高校生にとって国語教育の一環としてのみならず、新鮮で貴重な社会的経験となり、豊かな人間性を育むであろうと考えます。

また、次代を担う若者たちの新鮮な発想と創造性、しなやかで軽やかな感受性は、この小さな詩の未知の魅力を我々の前に開いてくれることでしょう。

以上のように<俳句甲子園>は俳句を通じ地域間・世代間の交流と若者の文化活動の活性化に必ず寄与するものと考えます。

(1997年当時作成)

## <大会運営>

大会の運営はNPO法人を中心としながら、大会を卒業したOBOGや市民で構成される150名以上のボランティア、地元松山市の職員が連携しながら実施します。また文部科学省や、全国高等学校文化連盟などの後援もいただき、高校生の良き学びの場、新たな交流や成長の場となるよう配慮した運営をしています。

## <大会スケジュール>

6月に地方大会、8月に全国大会を行います。参加可能な地方大会会場が近くに無い場合等は投句審査（句のみの書類選考）にてエントリーする事も可能です。

## <第24回大会日程>

- 3月1日…「大会募集要項」「開催要綱」発表
- 4月6日…予選用兼題 発表
- 5月12日…エントリー締め切り
- 5月19日…予選（投句応募）参加チーム 発表
  
- 6月1日…大会方式変更発表
- 6月8日…全国大会出場チーム 発表
- 7月13日…団体戦投句審査結果発表  
（上位4チーム）
- 8月22日…全国大会  
（準決勝戦・3位決定戦・決勝戦・表彰式）

## <今大会について>

新型コロナウイルス感染防止のため、地方大会、全国大会とも投句審査で実施。全国116チームの中から、投句審査で32チームを選出し、全国大会へ進出としました。全国大会の団体戦は32チームから投句審査で上位4チームを選出し、8月22日（日）に松山市

総合コミュニティセンターへ招待、準決勝戦・3位決定戦・決勝戦を行いました。個人賞は32チームが提出した句のなかから、投句審査で選出しました。

また、試合や表彰式の様子は、YouTubeライブで配信しました。

## <兼題>

### ◆全国大会予選

「春泥」「囀」「木の芽」

### ◆全国大会

「片蔭」「清水」「空蝉」「茄子」

決勝戦…「夜食」

準決勝戦…「菊」

3位決定戦…「鰯雲」

## <審査員長>

高野 ムツオ（小熊座主宰）／西村 和子（知音代表）／中原 道夫（銀化主宰）／星野 高士（玉藻主宰）／小澤 實（澤主宰）／夏井 いつき（いつき組組長）／岸本 尚毅（天為、秀）／関 悦史（翻車魚同人）／鶴田 智哉（オルガン）／如月真菜（童子主宰）／阪西 敦子（ホトトギス、円虹）／高柳 克弘（鷹編集長）／神野 紗希（現代俳句協会副幹事長）



## <エントリーチーム>

33都道府県85校116チームからのエントリーがあり、15都道府県24校32チームが全国大会へ出場しました(うち3校3チームが全国大会初出場)。(★は全国大会出場チーム)

都道府県名	チーム名	エントリー回数
北海道	北海道札幌西高等学校	3
	北海道小樽潮陵高等学校	8
	北海道旭川東高等学校A	19
	北海道旭川東高等学校B	19
青森県	弘前学院聖愛高等学校	15
	青森県立八戸高等学校★	2
	青森県立弘前高等学校A★	7
	青森県立弘前高等学校B	7
岩手県	岩手県立水沢高等学校A★	17
	岩手県立水沢高等学校B	17
	岩手県立花巻北高等学校A	初
	岩手県立花巻北高等学校B	初
	岩手県立盛岡第一高等学校	10
宮城県	仙台市立仙台高等学校	初
秋田県	秋田県立秋田北高等学校★	3
	秋田県立秋田西高等学校	9
山形県	山形県立山形南高等学校A	5
	山形県立山形南高等学校B	5
	山形県立山形南高等学校C	5
	山形県立山形西高等学校	4
福島県	福島県立須賀川桐陽高等学校	3
	福島県立磐城高等学校A★	8
	福島県立磐城高等学校B	8
茨城県	茨城県立並木中等教育学校★	5
	茨城県立結城第二高等学校	10
	茨城県立下館第二高等学校	初
	茨城県立太田第一高等学校A	初
	茨城県立太田第一高等学校B	初
栃木県	栃木県立宇都宮中央女子高等学校	初
	栃木県立宇都宮高等学校	2
群馬県	群馬県立高崎高等学校★	4
	群馬県立高崎工業高等学校	2
	高崎商科大学附属高等学校	6
埼玉県	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園	初
	星野高等学校A★	5
	星野高等学校B★	5
東京都	海城高等学校A★	8
	海城高等学校B★	8
	海城高等学校C★	8
	開成高等学校A★	21
	開成高等学校B★	21
	立教池袋高等学校A★	11
	立教池袋高等学校B★	11
	立教池袋高等学校C★	11
	明治大学附属中野高等学校	初
神奈川県	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	8
	神奈川県立多摩高等学校	初
	神奈川県立横浜翠嵐高等学校	5
	慶應義塾湘南藤沢高等部A	9
	慶應義塾湘南藤沢高等部B	9
石川県	石川県立金沢泉丘高等学校★	10
	石川県立金沢錦丘高等学校	7
長野県	長野県長野西高等学校	初
	長野清泉女学院高等学校★	5
	長野県屋代高等学校★	8

都道府県名	チーム名	エントリー回数	
岐阜県	岐阜県立飛騨神岡高等学校	16	
	鶯谷高等学校	2	
	大垣日本大学高等学校A	2	
	大垣日本大学高等学校B	2	
	大垣日本大学高等学校C	2	
	大垣日本大学高等学校D	2	
	岐阜県立大垣商業高等学校	7	
	静岡県	浜松学芸高等学校	11
愛知県	愛知県立幸田高等学校A★	20	
	愛知県立幸田高等学校B	20	
	名古屋高等学校A	10	
	名古屋高等学校B★	10	
	名古屋高等学校C★	10	
愛知県	愛知県立岡崎東高等学校★	6	
	愛知県立豊橋西高等学校	5	
	三重県	高田高等学校	19
滋賀県	滋賀県立瀬田工業高等学校	3	
	近江兄弟社高等学校	4	
	滋賀県立彦根東高等学校	5	
京都府	洛南高等学校★	19	
	洛星高等学校A	3	
	洛星高等学校B	3	
大阪府	大阪桐蔭高等学校	6	
	兵庫県	須磨学園高等学校	初
	甲陽学院高等学校	初	
和歌山県	和歌山県立桐蔭高等学校	6	
	智辯学園和歌山高等学校	3	
鳥取県	青翔開智高等学校	初	
島根県	島根県立平田高等学校	7	
岡山県	岡山県立新見高等学校	3	
	岡山県立岡山朝日高等学校A★	11	
	岡山県立岡山朝日高等学校B	11	
山口県	山口県立徳山高等学校A	8	
	山口県立徳山高等学校B	8	
	山口県立萩高等学校	4	
	山口県立高森高等学校	4	
	山口県立光高等学校	初	
	山口県立防府高等学校	初	
愛媛県	愛媛県立新居浜西高等学校	10	
	愛媛県立松山西中等教育学校	13	
	愛媛県立松山東高等学校★	23	
	新田青雲中等教育学校	9	
	愛媛県立宇和島高等学校	19	
	聖カタリナ学園高等学校	6	
	愛媛県立今治西高等学校伯方分校A★	22	
	愛媛県立今治西高等学校伯方分校B★	22	
	愛光高等学校	17	
	愛媛県立今治西高等学校★	16	
済美平成中等教育学校★	17		
福岡県	福岡県立筑紫丘高等学校	9	
	福岡県立八女高等学校	2	
熊本県	熊本信愛女学院高等学校A	21	
	熊本信愛女学院高等学校B	21	
	熊本信愛女学院高等学校C★	21	
	熊本信愛女学院高等学校D	21	
宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校	7	
沖縄県	沖縄県立首里高等学校	14	
	興南高等学校A	6	
	興南高等学校B	6	
	興南高等学校C	6	
	興南高等学校D	6	

## <第24回大会 選考方法>

### 【予選 選考方法】

- ・選考委員は、審査員長13名
- ・各選考委員に、学校名、生徒の名前を削除した「オーダー用紙」を配布し、それぞれのチームに対して5段階評価（A～E）を行う。
- ・各選考委員の評価点を集計し、上位32チームを決定。

ただし、評価点等で優劣つけがたい場合は、選考委員が協議、決定する。

評価	評価の考え方
A	上位第1位から第10位のランクに位置付けることができると評価されるチーム 【選出するチーム数は10チーム】
B	評価Aのチームに続いて、上位第11位から第20位のランクに位置付けることができると評価されるチーム【選出するチーム数は10チーム】
C	評価Bのチームに続いて、上位第21位から第30位のランクに位置付けることができると評価されるチーム【選出するチーム数は10チーム】
D	評価Cのチームと比べて、その評価は拮抗しているが、おしくも評価Cに入らなかったチーム【選出するチーム数は最大5チーム以内】
E	上記の評価AからDのいずれにも該当しないチーム

### 【全国大会 選考方法】

- ・選考委員は、審査員長13名
  - ・各選考委員の評価を集計し、団体賞、個人賞を決定。
- ただし、評価点等で優劣つけがたい場合は、選考委員が協議、決定する。
- ・各選考委員に、学校名、生徒の名前を削除した「オーダー用紙」を配布し、チームとしての評価ポイント（AからC）、個人選考として特選句（10句）を選出

評価	評価の考え方
A	上位第1番目から第4番目のランクに位置付けることができると評価されるチーム 【選出するチーム数は4チーム】
B	評価Aのチームと比べて、その評価は拮抗しているが、おしくも評価Aに入らなかったチーム【選出するチーム数は最大2チーム】
C	その他のチームは全て評価Cとする

【個人選考】	評価の仕方
特選10句 および その上位3句	①全国大会の投句審査に提出された全ての句（640句）の中から、特選句として10句選定 ②その特選句10句の中から、審査員長が自らの冠とする賞を授けても良いと評価する句を、評価の高い順に3句選定

# 全国大会



青森県立八戸高等学校  
(青森県)



青森県立弘前高等学校  
(青森県)



岩手県立水沢高等学校  
(岩手県)



秋田県立秋田北高等学校  
(秋田県)



星野高等学校B  
(埼玉県)



海城高等学校A  
(東京都)



海城高等学校B  
(東京都)



海城高等学校C  
(東京都)



立教池袋高等学校C  
(東京都)



石川県立金沢泉丘高等学校  
(石川県)



長野清泉女学院高等学校  
(長野県)



長野県屋代高等学校  
(長野県)



洛南高等学校  
(京都府)



岡山県立岡山朝日高等学校  
(岡山県)



愛媛県立松山東高等学校  
(愛媛県)



愛媛県立今治西高等学校  
伯方分校A  
(愛媛県)



# 出場チーム一覧



福島県立磐城高等学校  
(福島県)



茨城県立並木中等教育学校  
(茨城県)



群馬県立高崎高等学校  
(群馬県)



星野高等学校A  
(埼玉県)



開成高等学校A  
(東京都)



開成高等学校B  
(東京都)



立教池袋高等学校A  
(東京都)



立教池袋高等学校B  
(東京都)



愛知県立幸田高等学校  
(愛知県)



名古屋高等学校A  
(愛知県)



名古屋高等学校B  
(愛知県)



愛知県立岡崎東高等学校  
(愛知県)



愛媛県立今治西高等学校  
伯方分校B  
(愛媛県)



愛媛県立今治西高等学校  
(愛媛県)



済美平成中等教育学校  
(愛媛県)



熊本信愛女学院高等学校  
(熊本県)

## OBOG会

俳句甲子園経験者の有志によりOBOG会が結成され、俳句甲子園を支えています。地方大会や全国大会は、大勢のOBOGのボランティアスタッフが運営に携わっています。

毎年多くのOBOGが「俳句甲子園をもっと盛り上げていこう」、「俳句甲子園に恩返しを」など、様々な想いで応援してくれています。



※第22回大会時

# 準決勝戦・3位決定戦



## <評価の基準>

### ◆作品点（10点満点）

各審査員が、提出句ごとに10点満点で俳句の創作力を総合的に評価します。

### ◆鑑賞点（2点以内）

各審査員が、対戦ごとに質疑応答を審査して、各チームの総合鑑賞力を評価し、鑑賞力の上まわるチームにのみ2点以内の点数を付与します。

### ◆合計ポイントが同じ場合

原則として、作品点の高いチームの勝利となります。但し、同点でかつ、減点がある場合は、減点のない又は減点数の少ないチームの勝利となります。

## <競技の際の注意点>

◆相互の鑑賞力を促進する為、対象句側のチームによる句の自発的な解説は認めません。

◆お互いに俳句という文学的フィールドの中で、協議対象句に対する個々の見識・感受性・創造力を競い合うことを目的とする対戦であり、決して作品・個人に対する中傷誹謗の場ではありません。

## <準決勝戦・3位決定戦>

8月22日（日）に松山市総合コミュニティセンターで、準決勝戦・3位決定戦・決勝戦が行われました。投句審査で選出された上位4チーム、海城高等学校Bチーム、開成高等学校A・Bチーム、洛南高等学校が準決勝に挑みます。準決勝戦「菊」を兼題として、熱戦を繰り広げました。それぞれ準決勝戦を勝ち抜いた開成高等学校Bと洛南高等学校が決勝戦に進みます。3位決定戦は「鯛雲」を兼題とし、開成高等学校Aが海城高等学校Bを下して勝利を収めました。





# 決勝戦



## <決勝戦>

「夜食」を兼題に戦った決勝は、開成高等学校Bが3 - 1で洛南高等学校を下し、2年連続12回目の優勝を決めました。

## <大会結果>

優勝：開成高等学校B（東京都）

準優勝：洛南高等学校（京都府）

3位：開成高等学校A（東京都）

4位：海城高等学校B（東京都）



# 表彰式



## <審査員長評(抜粋)>

高野ムツオ先生

大変白熱した素晴らしい俳句甲子園だったと思います。恐らく、練習の回数も少なく大変だったと思います。どんなディベートになるか私自身も心配しました。でもそれは心配無用でした。素晴らしいディベートが繰り広げられました。特に自分の俳句の良さだけを主張するのではなく、相手の俳句を尊敬し、そして相手の俳句の良さを引き出す、そんな素晴らしい発言がたくさんありました。皆さんの俳句に対するリスペクト、俳句に対する愛がとてもあふれていた、そういう大会だったと、今振り返っています。なんとか来年はこの災禍が収まって、そしてみんなで予選をやって、そしてまたこの松山に集って、大いに俳句を語り合いたい、そのように思っています。



# 表彰式（個人賞）

## 個人最優秀賞は「文部科学大臣賞」

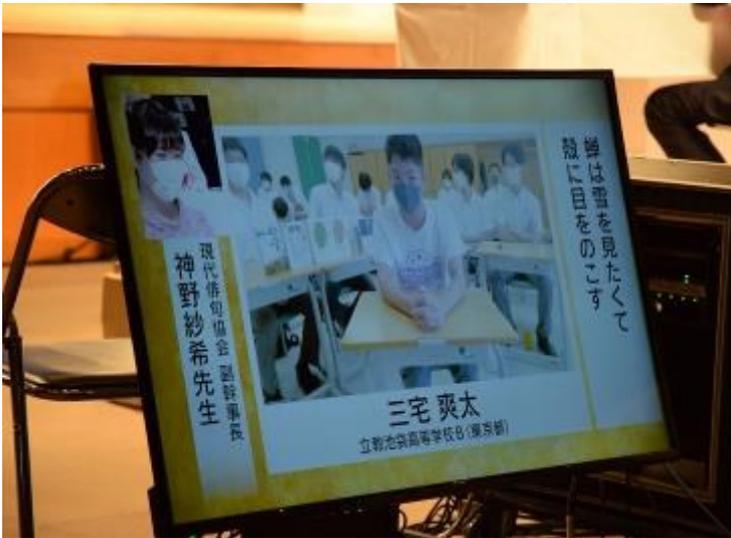
ウミユリの化石洗ひぬ山清水



### <審査員長講評(抜粋)>

小澤 實 先生

驚きの素晴らしい句でした。この山が太古は海であり、そして海の底であったという奥行、そして、洗っているというところに幻の像がはっきりと感じられました。作者の力と読者の読みが一緒になると、その幻想が立ち上がるというところに大変感動しました。



# 最優秀賞（文部科学大臣賞）

ウミユリの化石洗ひぬ山清水

岡山県立岡山朝日高等学校

辻颯太郎

# 〈入選〉

怪獣のフィギュアの最後尾は空蟬

青森県立八戸高等学校

菅原雅人

大茄子いま脈打った気がしたが

青森県立弘前高等学校

石岡佑紳

空蟬を透かしやはらかなる日射し

福島県立磐城高等学校

水澤蒼空

発掘調査の片蔭に吸殻

群馬県立高崎高等学校

齊藤嘉大

寄宿舎の夜空蟬の透きとほる

星野高等学校 A

宗村都央

籠に茄子放り入れけりよく跳ねる

海城高等学校 B

尾崎貫太

空港のいつとき静か蟬の殻

海城高等学校 B

南幸佑

片蔭が均質な朱になつてゐる

海城高等学校 B

東口怜弘

挽ぎ取りてぎしぎし洗ふ茄子かな

海城高等学校 C

三内光

真清水やその夜ねむりのふかきこと

開成高等学校 A

垂水文弥

末筆のやうに茄子を焼いてゐる

立教池袋高等学校 A

丹羽隆樹

臭き犬のしづかに待つてゐる日陰

立教池袋高等学校 B

赤松優

夕飯に観察日記の茄子出され

長野県屋代高等学校

村田いぶき

片蔭に蒸れたる尻を上げにけり

名古屋高等学校 A

幸村遙都

反り返りゐる青枯の茄子の蒂

名古屋高等学校 A

大塚宣孝

夕風に葉の揺れ茄子の揺れてゐず

名古屋高等学校 B

近藤壮良

留守電を入れたり茄子を漬けてたり

洛南高等学校

川田美紀

茄子焼くやぐつたりとして我に似る

済美平成中等教育学校

栗原鴻

水底へ森は続いて山清水

熊本信愛女学院高等学校

岩下ちひろ

空蟬や平和にしがみつくと我ら

熊本信愛女学院高等学校

加藤万葉

# 〈個人賞〉

## 〈優秀賞〉

焼茄子のプシューと裂けて消えし村

愛媛県立今治西高等学校校伯方分校 A

田頭京花

ポケットに帰りの切符山清水

洛南高等学校

山本泰己

真清水の湧き出づること反戦詩

愛媛県立今治西高等学校校伯方分校 A

馬越大知

聖火ゆらゆら空蟬の四肢しかと

愛媛県立松山東高等学校

伊藤恵一

マッハにて地球に接近中の茄子

福島県立磐城高等学校

菌邊暖人

潺々と清水に浸る鹿の骨

海城高等学校 B

関友之介

空蟬や雲へと続く木のなくて

開成高等学校 B

鈴木宏明

空蟬や胎児模型の顔のしわ

岩手県立水沢高等学校

菅原羽美

点字ブロック片蔭を抜け海へ

愛媛県立松山東高等学校

宇都宮駿介

寄り添へり蟬のあにおとうとの殻

海城高等学校 A

東風谷順正

茄子剪って掌に太陽の熱さかな

長野清泉女学院高等学校

小林蓮

星空を歩いて茄子の無尽蔵

開成高等学校 A

谷田部慶

蟬は雪を見たくて殻に目をのこす

立教池袋高等学校 B

三宅爽太



それぞれの熱い想いを胸に・・・

## 第25回大会へ

〈お問い合わせ先〉

NPO法人 俳句甲子園実行委員会 事務局

〒790-0014 愛媛県松山市柳井町2丁目21-3 グリーンフィールドヒラオカ1F

TEL : 089-943-1512 (平日13:00~17:00)

E-mail [info@haikukoushien.com](mailto:info@haikukoushien.com)

又は 松山市坂の上の雲まちづくり部 文化・ことば課

〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7-2

TEL 089-948-6952 FAX 089-934-1913

E-mail [bunkakotoba@city.matsuyama.ehime.jp](mailto:bunkakotoba@city.matsuyama.ehime.jp)